

(様式第8号) (第51条の6、第54条の2、第55条関係)

対象事業完了報告書

平成 31年 3月 12日

長野県知事 殿
(長野市長 殿)

住 所 長野市松岡二丁目4番1号
氏 名 長野広域連合

長野広域連合長 加藤 久雄

(法人にあつては、主たる事務所の
所在地、名称及び代表者の氏名)

対象事業の実施を完了したので、長野県環境影響評価条例第31条第1項の規定により、下記のとおり送付します。

記

対象事業の名称	長野広域連合 A 焼却施設建設事業
対象事業を完了した年月日	平成31年2月28日
対象事業に着手してから対象事業の実施を完了するまでの環境の保全のための措置の状況	評価書に基づき実施 (別添のとおり)
対象事業に着手してから対象事業の実施を完了するまでの対象事業の実施状況	別添図面のとおり ○建設工事 (平成28年7月～平成31年2月)

(備考) 必要に応じ、事後調査の状況又は環境の保全のための措置の状況に係る図面又は写真を添付すること。

－ 目 次 －

1. 環境保全のための措置の状況	
1.1_環境保全措置状況	2
1.2_環境影響評価準備書に対する知事の見解及び実施状況	5
1.3_施設供用時における環境保全措置内容	6
2. 対象事業の実施状況に係る図面、写真	
2.1_対象事業実施区域の位置図および工事工程表	8
2.2_全体配置図（施設概要含む）、断面図	10
2.3_立面図（工場棟）	12
2.4_在来種の採用	16
2.5_現況写真	17
2.6_主な施設写真	18
2.7_主な設備写真	21

1. 環境の保全のための措置の状況

1.1_環境保全措置状況(1/2)

対象	内容	作業位置	環境保全措置	環境保全措置			添付資料	評価書掲載頁		
				種類	実施内容	実施状況				
1 大気質	(1) 工事関係車両の走行に伴う大気質	工事関係車両走行ルート	住宅地を避けたルートの設定	回避	住宅地を避けたルート設定を行い、案内図により周知徹底	工事関係者に指導・教育を行い、周知徹底を図った。 ・新規入場教育 ・毎日の打合せ(搬入時間の調整など) ・災害防止協議会	平成28年10月28日 施工状況報告書参照	P258		
			搬入時間の分散	低減	現場工程打合せにより搬入時間(分散化)の調整					
			交通規制の遵守	低減	現場教育時に交通規制遵守への指導					
		対象事業実施区域	暖機運転(アイドリング)の低減	低減	アイドリングストップの指導、実施状況の管理					
			土砂搬出車両の荷台のシート覆い	低減	土砂搬出時は荷台シート覆いの設置 (原則、場外土砂搬出は行わない計画とします。)				一部の土砂を荷台にシート覆い、場外に搬出した。	平成30年10月18日 施工状況報告書参照
			土砂運搬車両等のタイヤ洗浄	低減	タイヤ洗浄機を設置し、タイヤ洗浄の実施				タイヤ洗浄機、散水車を使用し、粉じん飛散防止を図った。	
	(2) 建設機械の稼働に伴う大気質	対象事業実施区域	排出ガス対策型機械の使用	最小化	排出ガス対策型機械の採用	排出ガス対策型機械を採用し、排出ガス抑制を図った。	平成28年10月28日 施工状況報告書参照			
			建設機械稼働時間の抑制	低減	現場工程打合せにより適正な稼働時間の調整	毎日の打合せにより稼働時間の調整を行った。				
			建設作業機械の分散配置	低減	建設機械の配置に配慮し、住宅地から離れた位置に建物を計画	住宅地から離れた位置に建設機械を配置した。				
			ダンプトラックのアイドリング停止	低減	アイドリングストップの指導、実施状況の管理	工事関係者に指導・教育を行い、周知徹底を図った。				
	(3) 建設機械の稼働に伴う粉じん	対象事業実施区域	工事区域に仮囲いを設置	最小化	工事区域に仮囲い等を設置	北側の住宅地側に仮囲い(5m)を設置した。また、その他は工事進捗に応じ、本設のフェンス等にメッシュシートを設置した。	平成28年10月28日 施工状況報告書参照			
			排出ガス対策型機械の使用	最小化	排出ガス対策型機械の採用	排出ガス対策型機械を採用し、排出ガス抑制を図った。				
工事区域への散水			低減	粉じん飛散防止のため、散水の実施	散水車を使用し、粉じん飛散防止を図った。					
2 騒音	(1) 工事関係車両の走行による影響	工事関係車両走行ルート	住宅地を避けたルートの設定	回避	住宅地を避けたルート設定を行い、案内図により周知徹底	工事関係者に指導・教育を行い、周知徹底を図った。 ・新規入場教育 ・毎日の打合せ(搬入時間の調整など) ・災害防止協議会	平成28年10月28日 施工状況報告書参照			
			搬入時間の分散	低減	現場工程打合せにより搬入時間(分散化)の調整					
			交通規制の遵守	低減	現場教育時に交通規制遵守への指導					
	(2) 建設機械の稼働による影響	対象事業実施区域	工事区域に仮囲いを設置	最小化	工事区域に仮囲い等を設置	北側の住宅地側に仮囲い(5m)を設置した。				
			低騒音型機械の使用	最小化	低騒音型機械の採用	低騒音型機械を採用し、騒音抑制を図った。				
			建設機械の稼働時間の遵守	最小化	現場工程打合せにより適正な稼働時間の調整	毎日の打合せにより稼働時間の調整を行った。				
(1) 工事関係車両の走行による影響	工事関係車両走行ルート	住宅地を避けたルートの設定	回避	住宅地を避けたルート設定を行い、案内図により周知徹底	工事関係者に指導・教育を行い、周知徹底を図った。 ・新規入場教育 ・毎日の打合せ(搬入時間の調整など)	平成28年10月28日 施工状況報告書参照				
		搬入時間の分散	低減	現場工程打合せにより搬入時間(分散化)の調整						
		交通規制の遵守	低減	現場教育時に交通規制遵守への指導						
	(2) 建設機械の稼働による影響	対象事業実施区域	低振動型機械の使用	最小化			低振動型機械の採用	振動の少ないアースオーガーを採用し杭工事での振動抑制に努めた。		
建設機械の稼働時間の遵守			最小化	現場工程打合せにより適正な稼働時間の調整	毎日の打合せにより稼働時間の調整を行った。					
4 水質	(1) 工事による影響(平常時)	対象事業実施区域	揚水量を低減する掘削工法等の検討	最小化	湧水の揚水抑制のため、遮水工法(SMW、止水改良)の採用	施工計画にて揚水抑制のため、遮水工法を採用した。	平成28年10月28日 施工状況報告書参照			
			掘削深度の最小化	最小化	掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施					
			濁水を抑制する揚水方法の選定	低減	仮設沈殿槽を設け、濁水処理の上、上澄水を放流					
			湧水の濁水化防止	低減	湧水揚水時は仮設沈砂槽に貯留し濁水化の防止					
			湧水の濁りの監視	低減	湧水揚水時は濁水状況を監視し、状況に応じ濁水処理の上、上澄水を放流					
	(2) 工事による影響(降雨時)	対象事業実施区域	地区外流出抑制対策の実施	低減	工事区域内での地下浸透の促進、素掘り側溝の設置	雨水は素掘り側溝、工事用仮設井戸、排水釜場を設け、場内に地下浸透していることを降雨時に監視し、場外への濁水流出防止を図った。	平成28年10月28日 施工状況報告書参照			
			仮設沈砂池の設置	低減	仮設沈砂池の設置により、濁水流出の低減					
			雨水排水の濁りの監視	低減	降雨時は濁水状況を監視し、状況に応じ濁水処理の上、上澄水を放流					
			凝集剤による土壌の沈殿促進	低減	降雨時は濁水状況を監視し、状況に応じ、凝集剤による土壌の沈殿促進					
(1) 工事による影響	対象事業実施区域	揚水量を低減する掘削工法等の検討	最小化	湧水の揚水抑制のため、遮水工法(SMW、止水改良)の採用	施工計画にて揚水抑制のため、遮水工法を採用した。	平成28年10月28日 施工状況報告書参照				
		掘削深度の最小化	最小化	掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施						
		止水矢板等の設置による影響範囲の最小化	最小化	遮水工法(SMW、止水改良)による影響範囲の最小化						
		地下水水位モニタリングの実施	低減	地下水水位計による地下水水位モニタリングの実施			敷地内の地下水水位計により地下水水位モニタリングを実施しました。	平成29年10月18日 施工状況報告書参照		

【環境保全措置の種類】

回避:全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。
 最小化:実施規模または程度を制限すること等により、影響を最小化する。
 修正:影響を受けた環境を修復、回復または復元すること等により、影響を修正する。
 低減:継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。
 代償:代用的な資源もしくは環境で置き換え、または提供すること等により、影響を代償する。

1.1_環境保全措置状況(2/2)

対象	内容	作業位置	環境保全措置	環境保全措置			添付資料	評価書掲載頁
				種類	実施内容	実施状況		
6 土 壌 汚 染	(1)工事による影響	対象事業実施区域	土砂搬出車両荷台のシート覆い	低減	土砂搬出時は荷台シート覆いの設置 (原則、場外土砂搬出は行わない計画とします。)	一部の土砂を荷台にシート覆い、場外に搬出した。	平成30年10月18日 施工状況報告書参照	P510
			土砂運搬車両等のタイヤ洗浄	低減	タイヤ洗浄機を設置し、タイヤ洗浄の実施	タイヤ洗浄機、散水車を使用し、粉じん飛散防止を図った。	平成28年10月28日 施工状況報告書参照	
			工事中出入り口の路面洗浄	低減	散水による路面洗浄の実施			
			工事区域への散水	低減	粉じん飛散防止のため、散水の実施			
7 地 盤 沈 下	(1)工事による影響	対象事業実施区域	揚水量を低減する掘削工法等の検討	最小化	湧水の揚水抑制のため、遮水工法(SMW、止水改良)の採用	施工計画にて揚水抑制のため、遮水工法を採用した。	平成28年10月28日 施工状況報告書参照	P522
			掘削深度の最小化	最小化	掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施			
			止水矢板等の設置による影響範囲の最小化	最小化	遮水工法(SMW、止水改良)による影響範囲の最小化			
			地下水水位モニタリングの実施	低減	地下水水位計による地下水水位モニタリングの実施	敷地内の地下水水位計により地下水水位モニタリングを実施しました。	平成29年10月18日 施工状況報告書参照	
			流動化物(砂等の礫間充填物)を採取しない揚水方法の採用	低減	揚水抑制により、流動化する砂礫等の採取低減	施工計画にて揚水抑制のため、遮水工法を採用した。	平成28年10月28日 施工状況報告書参照	
8 植 物	(1)緑化	対象事業実施区域	公共施設としてふさわしい規模の緑化	修正	緑化率20%を確保	外構設計にて以下の点を考慮の上、協議しました。 ・緑化率20%の確保 ・在来種の選定 ・屋上緑化・壁面緑化の採用	平成31年3月 対象事業完了報告書 P10.P16参照	P553
			現存植生等を考慮した植栽及び緑化	修正	植栽及び緑化に在来種を選定			
			屋上緑化・壁面緑化	代償	屋上緑化・壁面緑化を検討			
9 動 物	(1)工事による影響	対象事業実施区域	「大気質」、「騒音」、「振動」、「水質」、「植物」の 工事による影響の環境保全措置を実施	—	「大気質」、「騒音」、「振動」、「水質」、「植物」の項目に準じる	「大気質」、「騒音」、「振動」、「水質」、「植物」の項目に準じます。	—	P592
10 生 態 系	(1)工事による影響	対象事業実施区域	「大気質」、「騒音」、「振動」、「水質」、「植物」、「動物」の 工事による影響の環境保全措置を実施	—	「大気質」、「騒音」、「振動」、「水質」、「植物」、「動物」の項目に準じる	「大気質」、「騒音」、「振動」、「水質」、「植物」、「動物」の項目に準じます。	—	P629
11 景 観	(1)工事による影響	対象事業実施区域	工事区域周辺への仮囲いの設置	最小化	工事区域に仮囲い等を設置	北側の住宅地側に仮囲い(5m)を設置した。 (周辺環境に配慮した白色系の仮囲いを採用)	平成28年10月28日 施工状況報告書参照	P645
			仮囲いの色彩等の考慮	低減	住宅地を考慮した仮囲いの色彩、デザインを採用			
12 ふ れ あ い 活 動 の 場	(1)工事による影響	対象事業実施区域	「大気質」、「騒音」、「振動」、「水質」の工事による影響 の環境保全措置を実施	—	「大気質」、「騒音」、「振動」、「水質」の項目に準じる	「大気質」、「騒音」、「振動」、「水質」の項目に準じます。	—	P665
13 廃 棄 物 等	(1)工事による影響	対象事業実施区域	建設発生土の再利用	低減	発生土を場内の埋め戻し等に再利用	場内発生土を造成盛土として再利用しています。	平成28年10月28日 施工状況報告書参照	P673
			コンクリートくず、金属くず、木くず等の再生利用	低減	コンクリートくず、金属くず、木くず等の再生利用	建設廃棄物は分別搬出の上再利用を行っています。	平成31年3月 対象事業完了報告書 P4参照	
			現場での分別排出	低減	現場発生廃棄物の分別搬出	現場発生廃棄物は分別搬出を行っています。	平成28年10月28日 施工状況報告書参照	

【環境保全措置の種類】

回避:全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。
 最小化:実施規模または程度を制限すること等により、影響を最小化する。
 修正:影響を受けた環境を修復、回復または復元すること等により、影響を修正する。
 低減:継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。
 代償:代用的な資源もしくは環境で置き換え、または提供すること等により、影響を代償する。

1.1 環境保全措置状況（補足添付）

対象 13. 廃棄物等（建設廃棄物分別搬出状況）



コンクリートくず



金属くず



木くず



紙くず



1.2 環境影響評価準備書に対する知事の意見及び実施状況

対象	知事の意見 (工事中に関連する部分について、原文)	長野広域連合の見解 (工事中に関連する部分について、原文)	作業位置	環境保全措置	環境保全措置			添付資料	評価書 掲載頁
					種類	実施内容	実施状況		
1 事業 内容	「事業の実施にあたっては周辺住民の安全・安心を確保するため、引き続き積極的な情報公開に努めること。」	「周辺住民の安全・安心を確保するための情報公開を、引き続き積極的に実施してまいります。」	対象事業実施区域	周辺住民の安全・安心確保のための情報公開	—	工事中看板を設置し、工事に関する情報を掲示	お知らせ看板等を掲示しています。	平成29年1月27日 施工状況報告書参照	P801
					—	長野広域連合ホームページでの情報公開	建設状況に関する情報を長野広域連合ホームページで公開しています。	平成29年1月27日 施工状況報告書参照	
2 悪臭	「廃棄物運搬車両の内部洗浄を行う場合は、類似事例を調査するなどして、悪臭に対する苦情が発生しないようにすること。」	「廃棄物運搬車両の洗車場は、屋内に設けるとともに臭気の漏洩を防止します。」	対象事業実施区域	廃棄物運搬車両の洗車場を屋内設置	低減	洗車場を屋内配置する施設設計の実施	廃棄物運搬車両の洗車場を屋内配置する設計としました。	平成29年1月27日 施工状況報告書参照	P801
3 水質・ 水象	「工事中の豪雨などによる濁水の流出については、計画施設の設計や施工の段階において適切な保全対策を講じるとともに、事後調査にあたっては、速やかに状況を確認すること。」	「計画施設の設計や施工の段階において、豪雨時での濁水流出を防ぐ適切な保全対策を講じます。また、事後調査にあたっては、速やかに状況を確認いたします。」	対象事業実施区域	施工段階での豪雨時の濁水流出対策	低減	素掘り側溝、仮設井戸による地下浸透	素掘り側溝、工所用仮設井戸、排水釜場を設け、場内に地下浸透していることを豪雨時に監視し、場外への濁水流出防止を図りました。	平成28年10月28日 施工状況報告書参照	P801
				事後調査における状況確認	低減	降雨時の濁水状況の監視	濁度測定により濁水状況を監視しました。	平成29年4月28日 施工状況報告書参照	
	「工事中における地下水の揚水については、工事前からモニタリングによる地下水水位の状況把握を行うとともに、計画施設の設計や施工の段階において、揚水による影響の解析を行い、適切な保全対策を講じます。」	「計画施設の設計や施工の段階において、揚水による影響の解析を行い、適切な保全対策を講じます。また、掘削工事に伴う揚水期間中及びその前後において、モニタリングによる地下水水位の状況把握を行い、揚水が与える影響についての適切な環境保全措置を実施いたします。」	対象事業実施区域	揚水量を低減する掘削工法等の検討	最小化	湧水の揚水抑制のため、遮水工法(SMW、止水改良)の採用	施工計画にて揚水抑制のため、遮水工法を採用しました。	平成28年10月28日 施工状況報告書参照	P801
地下水水位モニタリングの実施	低減	地下水水位計による地下水水位モニタリングの実施	敷地内の地下水水位計により地下水水位モニタリングを実施しました。	平成29年10月18日 施工状況報告書参照					

【環境保全措置の種類】
 回避: 全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。
 最小化: 実施規模または程度を制限すること等により、影響を最小化する。
 修正: 影響を受けた環境を修復、回復または復元すること等により、影響を修正する。
 低減: 継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。
 代償: 代用的な資源もしくは環境で置き換え、または提供すること等により、影響を代償する。

1.3_施設供用時における環境保全措置内容


項目	実施期間	環境保全措置の対象	環境保全措置	評価書掲載頁		
大気質	供用時	廃棄物搬出入車両等の走行	住宅地を避けたルートの設定	P298		
			交通規制の遵守の要請			
			暖機運転（アイドリング）の低減の要請			
			焼却灰等の溶融固化			
		焼却施設の稼働	コンテナ車等の使用による搬出時の焼却灰等の飛散防止		P329	
			排ガス濃度の低減（計画値の設定）			
			大気汚染物質の連続測定			
			適正な排ガス処理の実施			
			適正な運転管理の実施			
			ごみの分別に伴う焼却ごみの減量化対策			
平滑化した運転の励行						
騒音	供用時	廃棄物搬出入車両等の走行	住宅地を避けたルートの設定	P372		
			交通規制の遵守の要請			
		施設の稼働	騒音レベルの低減（計画値の設定）	P384		
			騒音発生機器の適切な防音措置			
			騒音発生の大きい機器の屋内への設置			
			作業時間の厳守			
			機器類の定期的な管理			
			機器類の定期的な管理			
		振動	供用時	廃棄物搬出入車両等の走行	住宅地を避けたルートの設定	P408
					交通規制の遵守	
施設の稼働	振動レベルの低減（計画値の設定）			P414		
	振動発生機器の適切な防振措置					
低周波音	供用時	施設の稼働	低周波音発生機器の屋内への設置	P425		
			低周波音発生機器の防振対策			
			機器類の定期的な管理			
悪臭	供用時	煙突排ガス臭気	排ガスからの臭気物質濃度の低減（計画値の設定）	P448		
			適切な排ガス処理の実施			
		施設から漏洩する臭気	ごみピット内空気を燃焼用空気を使用	P449		
			搬入扉の設置			
			全炉休止時に使用する脱臭装置の使用			
			エアカーテンの設置			
			投入扉は投入時のみ開放			
			ごみピット内を負圧に保持			
		廃棄物搬入車両の臭気	密閉性を高くした建物構造にする	P449		
			住宅地を避けたルートの設定			
水象	供用時	施設の稼働	廃棄物搬入車両の洗車場の屋内設置と洗車の実施	P500		
			場内道路の適宜洗浄			
			影響を最小化できる揚水井戸位置の選定			
土壌汚染	供用時	施設の稼働	安全揚水量の検討	P513		
			利用井戸における地下水位の監視			
		廃棄物の排出・処理	排ガス濃度の低減（計画値の設定）		P516	
			排ガス濃度（ダイオキシン類）の管理			
地盤沈下	供用時	施設の存在・供用	コンテナ車等の使用による搬出時の焼却灰等の飛散防止	P524		
			灰溶融による有害物質の溶出の抑制			
植物	供用時	施設の稼働	磁気選別機を設け、灰溶融施設の安定溶融の実施	P524		
動物	供用時	施設の稼働	流動化物（砂等の礫間充填物）を採取しない揚水方法の採用	P559		
生態系	供用時	施設の稼働	安全揚水量の検討	P618		
景観	供用時	施設の存在	排ガス濃度の低減（計画値の設定）	P629		
触れ合い活動の場	供用時	施設の存在	施設外壁等の色彩への配慮	P656		
			「大気質」、「騒音」、「振動」、「悪臭」、「植物」、「動物」及び「生態系」に同じ			
廃棄物等	供用時	施設の供用	「大気質」、「騒音」、「振動」、「悪臭」、「植物」、「動物」及び「生態系」に同じ	P665		
			ごみ減量化の広報・啓発			
			分別による資源の再利用			
			溶融スラグ等の資源利用			
			飛灰の適正処分			
温室効果ガス	供用時	施設の供用	ごみの発生抑制	P677		
			熱回収による高効率発電			
			低公害車の積極的導入の要請			
			暖機運転（アイドリング）の低減の要請			
			燃焼温度等の適正管理			
日照障害	供用時	施設の存在	職員に対する温暖化対策意識の啓発	P692		
			建築物及び煙突を敷地南側に配置			
				P705		

2. 対象事業の実施状況に係る図面、写真

2.1_対象事業実施区域の位置図および工事工程表

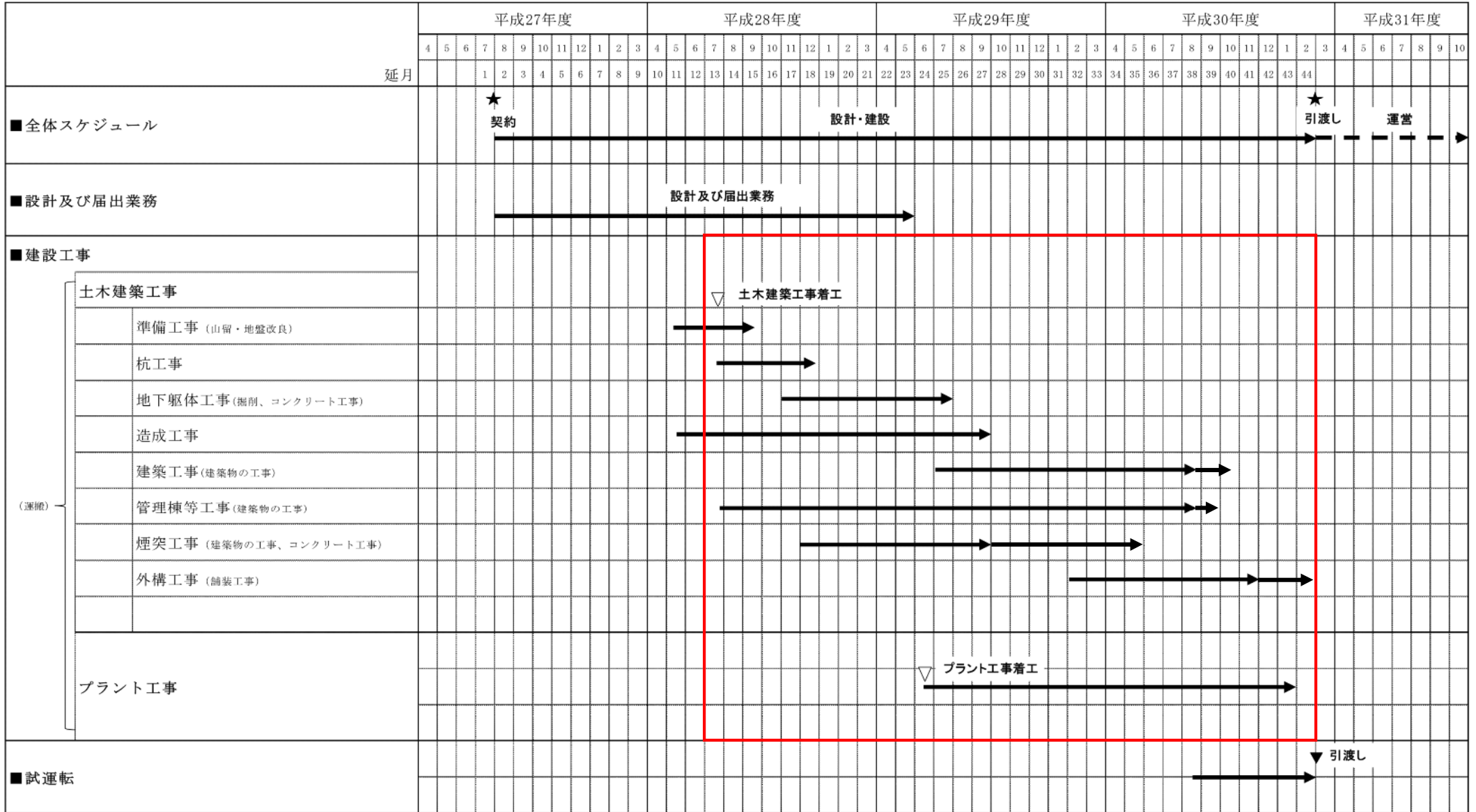
2.1.1_対象事業実施区域の位置図



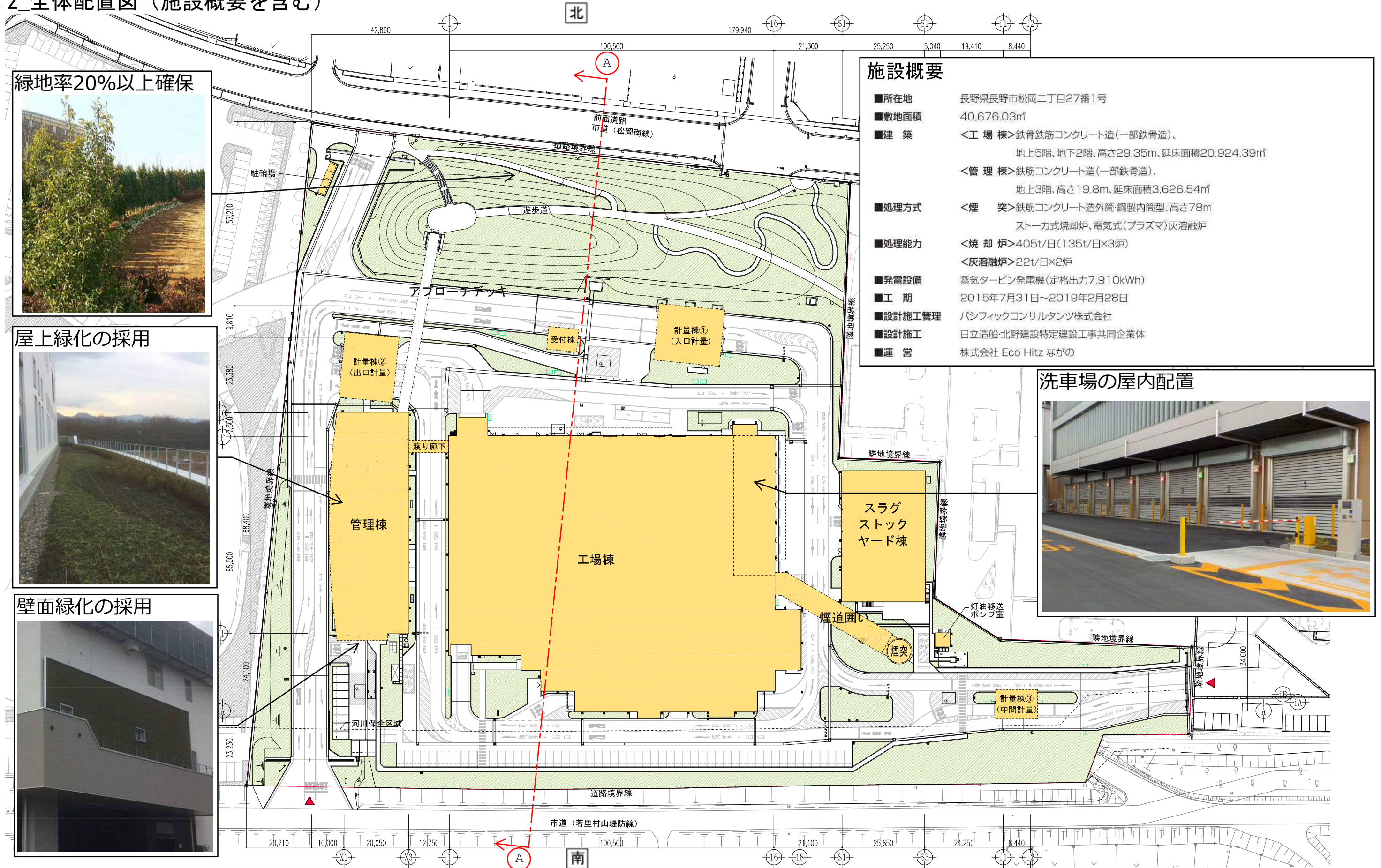
凡 例	
	対象事業実施区域



2.1.2_工事工程表



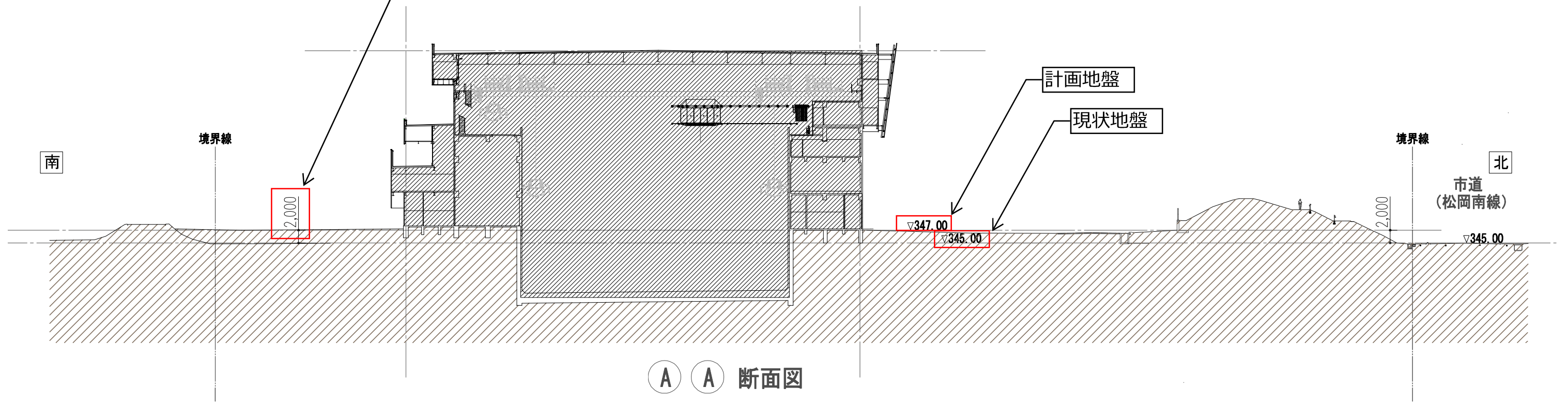
2.2_全体配置図（施設概要を含む）



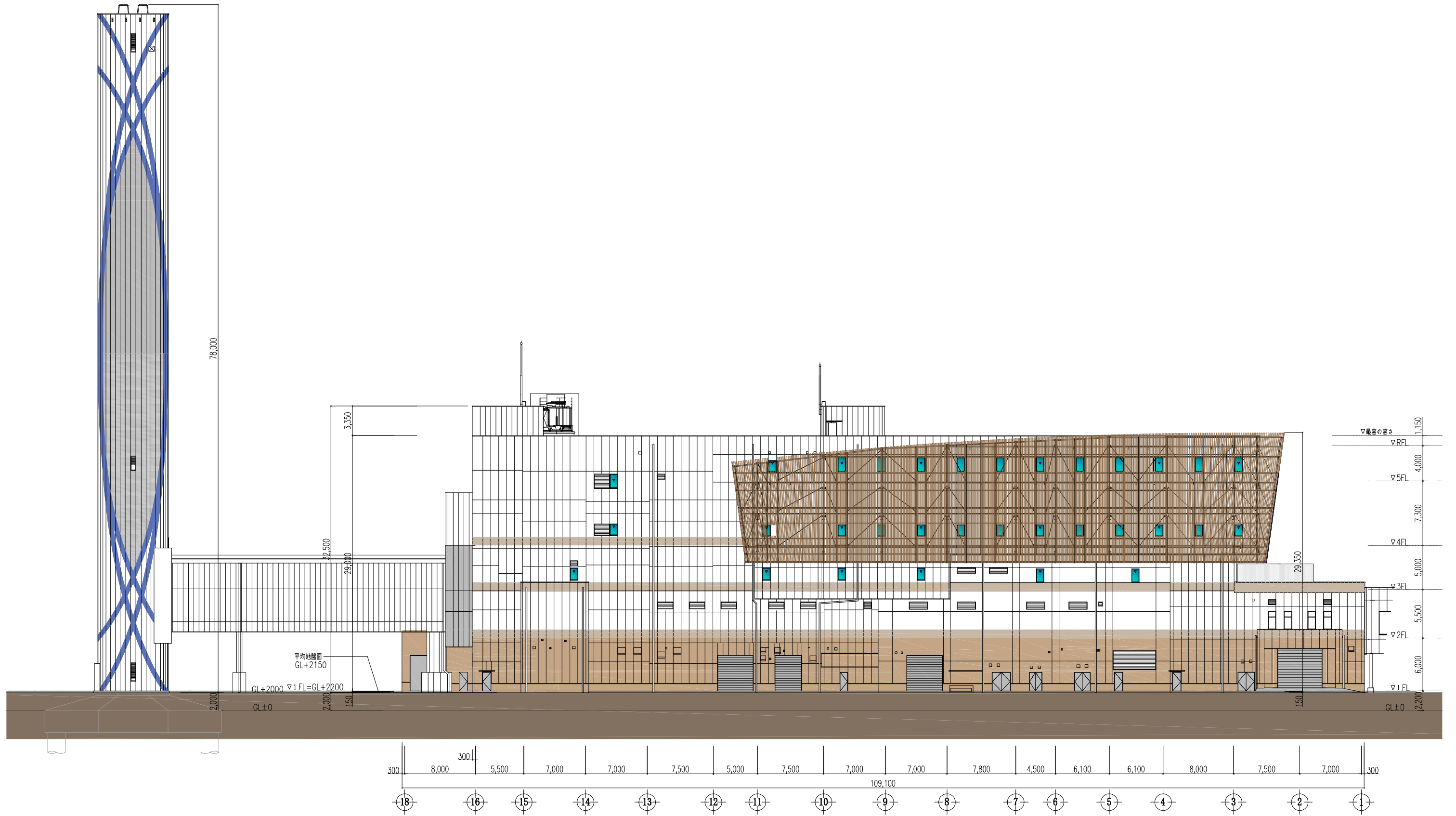
「(仮称)長野広域連合A焼却施設」整備及び運営事業 日立造船・北野建設特定建設工事共同企業体		日立造船 北野建設 北野建設	1 2 3 4 5	6 7 8 9 10	11 12 13 14 15	16 17 18 19 20	本図書の全部または一部の無断複製を禁じます。	全図 A-a-007 JOB NO.	SHEET TITLE 全体配置図 JOB NAME	DATE 2019.02.28 SCALE A1 S=1:500 A3 S=1:1000
---	--	-------------------	-----------------------	------------------------	----------------------------	----------------------------	------------------------	--------------------------	----------------------------------	--

2.2_断面図

本施設は浸水対策として計画地盤を現状地盤より+2.0m盛土しています。

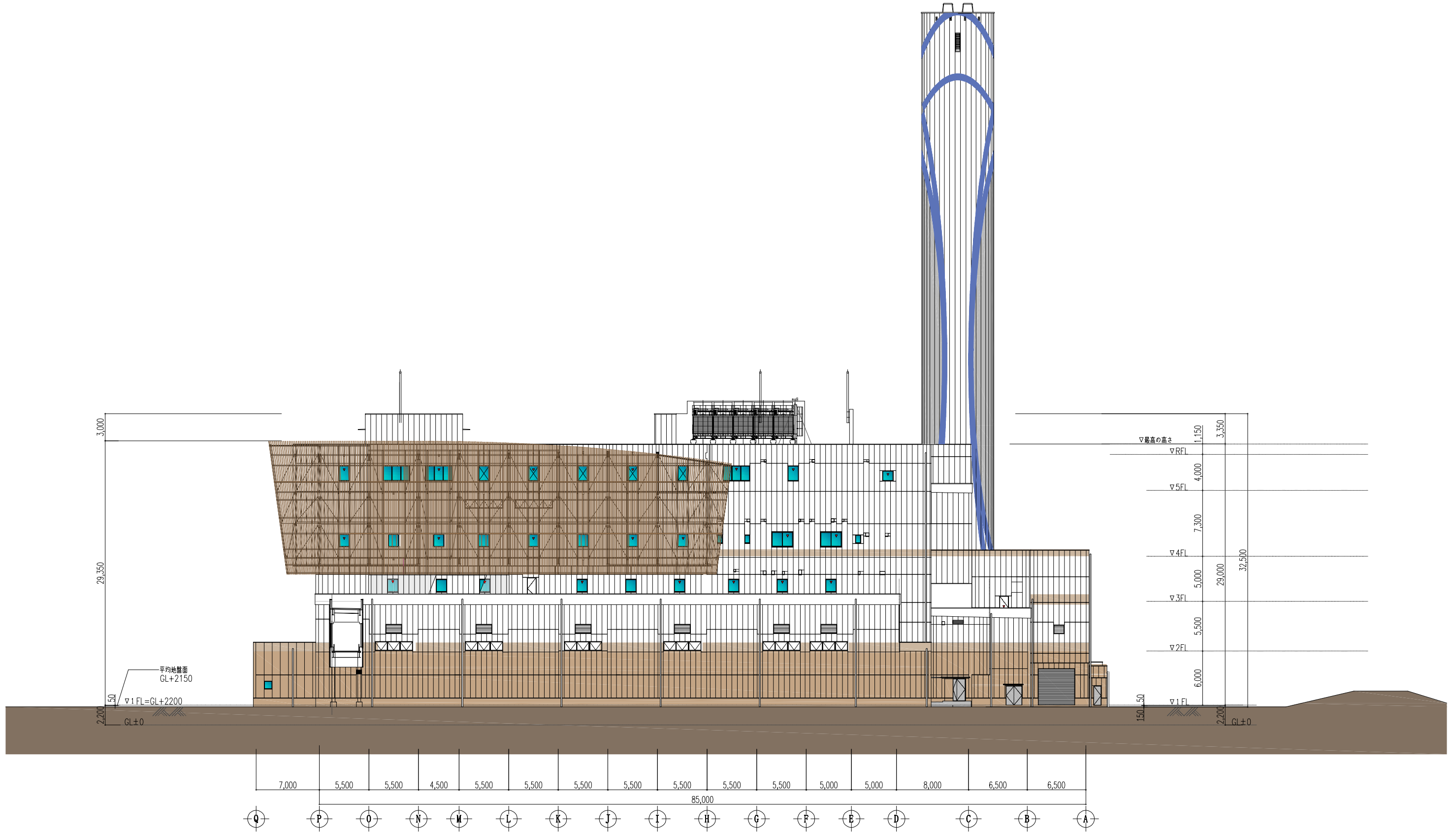


2.3_立面図 (工場棟_北側)



北側立面図

2.3_立面図 (工場棟_西側)



西側立面図

「(仮称)長野広域連合A焼却施設」整備及び運営事業
日立造船・北野建設特定建設工事共同企業体

日立造船 北野建設
KITANO KITANO KITANO KITANO

1	・	6	・
2	・	7	・
3	・	8	・
4	・	9	・
5	・	10	・

本書の全部または一部の無断複写複製を禁じます。

CORD NO.
SYSTEM NO.

SHEET NO.
A-6-125
JOB NO.

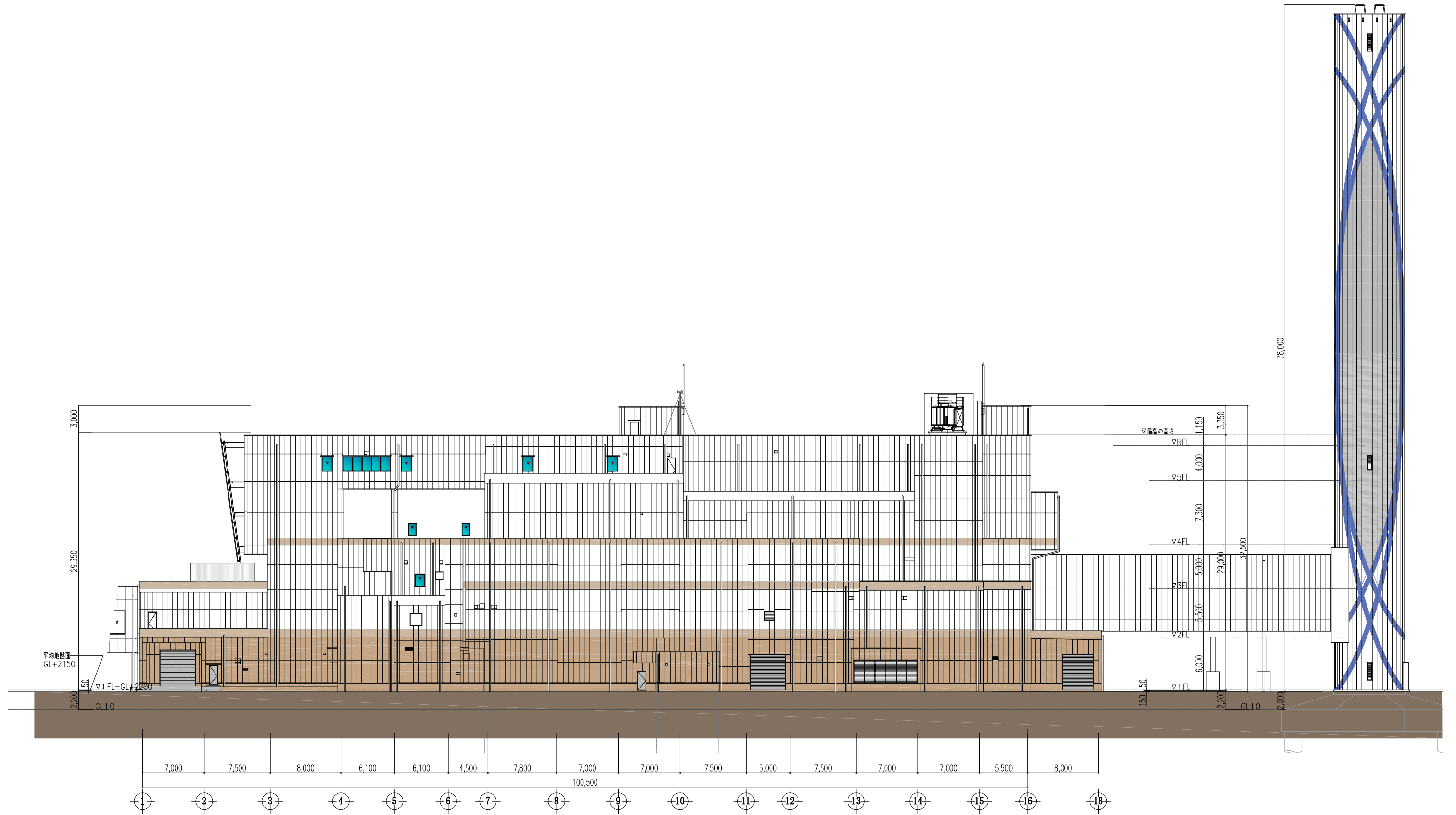
SHEET TITLE
JOB NAME

工場棟・立面図 (2)

「(仮称)長野広域連合A焼却施設」建設工事

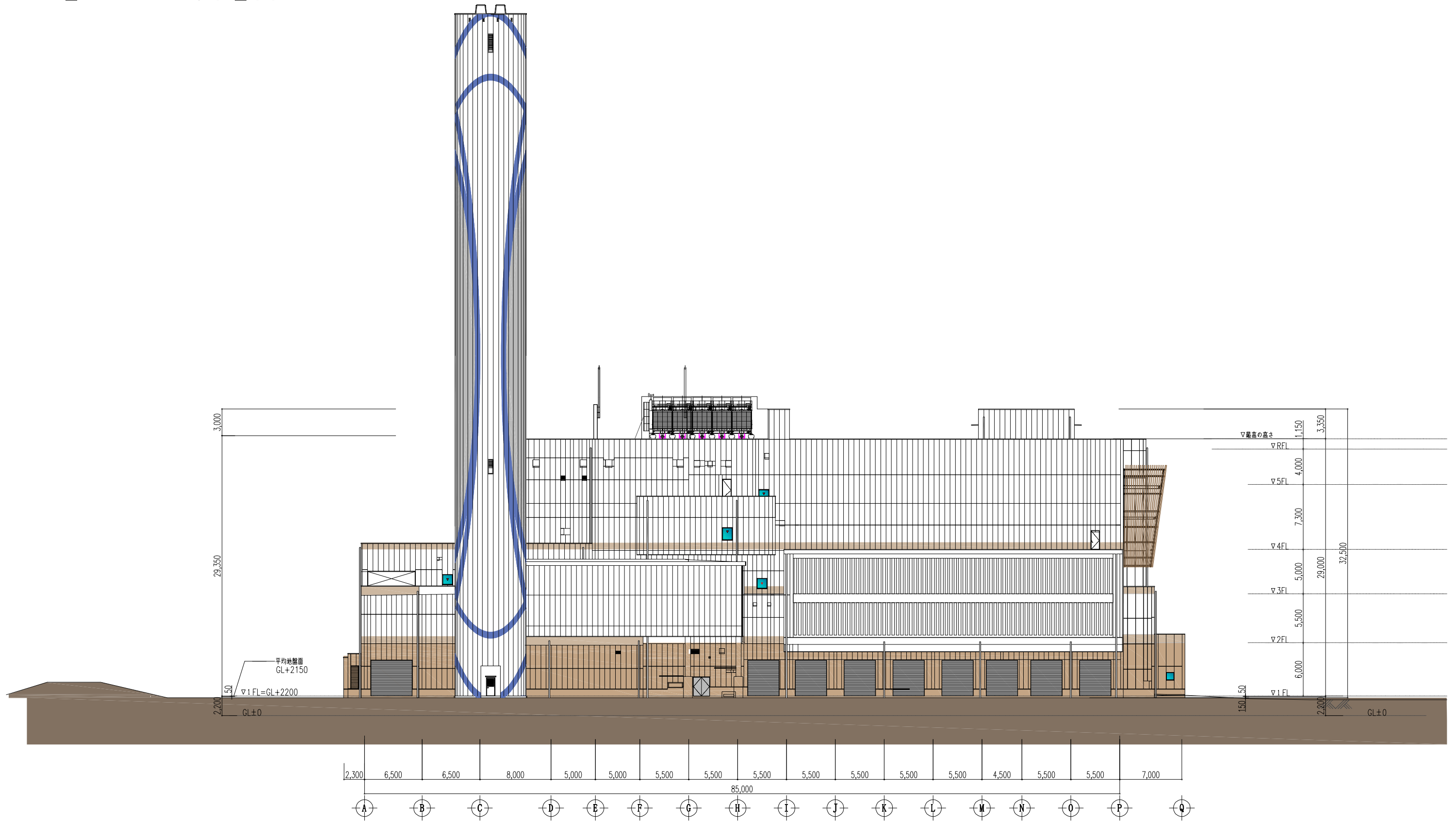
DATE
2019.02.28
SCALE
A1 S=1:200
A3 S=1:400

2.3_立面図 (工場棟_南側)



南側立面図









2.3_立面図 (工場棟_東側)



東側立面図

「(仮称)長野広域連合A焼却施設」整備及び運営事業 日立造船・北野建設特定建設工事共同企業体		日立造船 北野建設 KITANO / KITANO / KITANO / KITANO	1 6 2 7 3 8 4 9 5 10	本図書の全部または一部の無断複写複製を禁じます。	CORD. NO. SYSTEM NO.	SHEET NO. A-6-127 JOB NO.	SHEET TITLE 工場棟・立面図 (4) JOB NAME 「(仮称)長野広域連合A焼却施設」建設工事	DATE 2019.02.28 SCALE A1 S=1:200 A3 S=1:400
---	--	---	--	--------------------------	-------------------------	---------------------------------	---	---

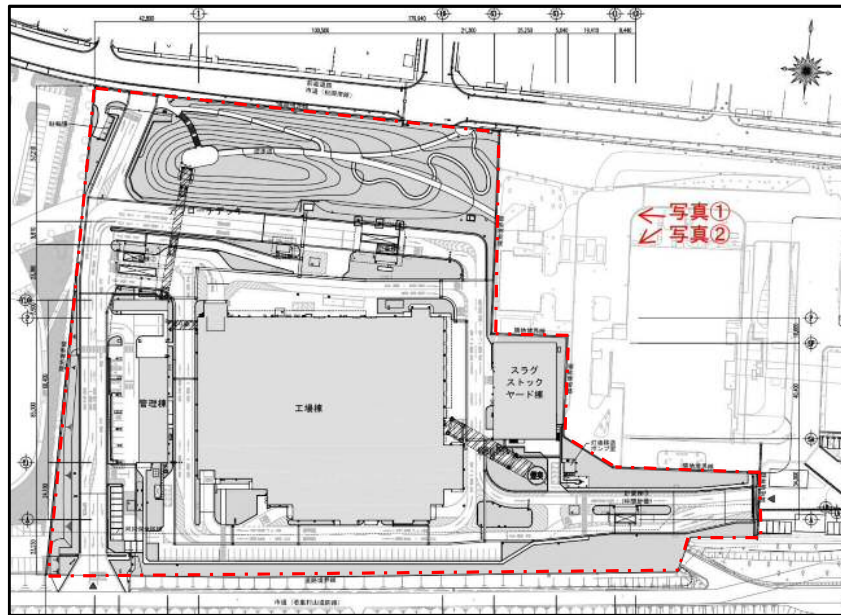
2.4_在来種の採用

クヌギ	イヌテ	ハウチワカエ
		
コナラ	トチノキ	サワナギ
		
ヤマホウソウ	ヤマブキ	ヤマハギ
		

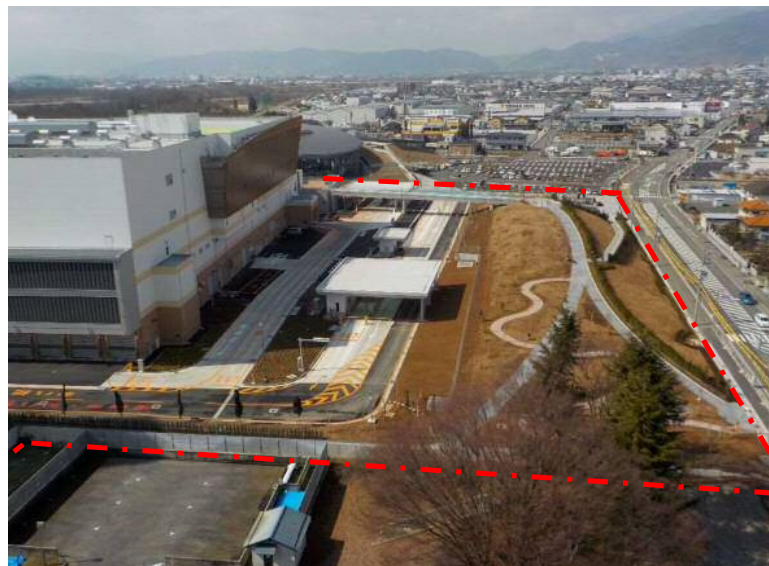
(写真は成木時のイメージです。)

2.5_現況写真

(凡例) - - - :敷地境界線



長野市清掃センター煙突より撮影



写真①



写真②

2.6_主な施設写真(1/3)



施設全景



工場棟



管理棟

2.6_主な施設写真(2/3)



受付棟



計量棟①(入口)



計量棟②(出口)

2.6_主な施設写真(3/3)



計量棟③(中間)



スラグストックヤード棟



アプローチデッキ

2.7_主な設備写真(1/3)

ながの環境エネルギーセンターの設備

ごみの受け入れと運転管理

ごみを受け入れ、ごみピットで攪拌して、焼却炉に送ります。また、中央操作室にて運転管理をします。



■ごみ計量機

ごみ収集車は、計量機で積載しているごみの重さを量ります。



■プラットフォーム

ごみ収集車は、5つの投入扉(左側)からごみピットへ投入します。一般の持込車両は、3つのダンピングボックス(右側)からごみピットへ投入します。



■ごみピット

No.1ごみピット(左側)でごみを受け入れ、No.2ごみピット(右側)でごみを十分に攪拌した後、焼却炉に投入します。



■中央操作室 工場の運転管理を24時間体制で行っています。制御の集中化及び自動化を図っています。

2.7_設備写真(2/3)

ごみの焼却

全連続焼却式ストーカ炉で完全燃焼させ、
電気や温水としてエネルギーを有効活用します。



■焼却炉

850℃以上の高温で、自動燃焼制御により安定した燃焼を常に維持しています。ごみは、火格子と呼ばれる階段状の装置によりゆっくりと送られ、完全燃焼し灰になります。



■ボイラ

排ガスの熱により、5.0MPa、420℃の蒸気が発生します。



■蒸気タービン発電機

ボイラで発生した蒸気を用いて、7,910kwの発電を行います。



■余熱利用

蒸気の一部は、温水として、隣の「サンマリンながの」に送られています。

2.7_設備写真(3/3)

排ガス処理と灰処理

発生した排ガスの有害物資を取り除き、きれいな排ガスを放出します。また、灰は溶融して減容化を図るとともにスラグは資源化します。



ろ過式集じん器

排ガスは、2段階にろ過します。1段階では、活性炭を吹き込み、ダイオキシン類を、2段階目は、消石灰を吹き込み、塩化水素と硫酸化物を除去します。



触媒反応塔

アンモニアを噴霧し触媒の働きにより窒素酸化物を分解します。



スラグストックヤード

灰溶融炉で溶かした灰から生成されるスラグを保管します。



煙突

きれいになった排ガスは、高さ78mの煙突から放出されます。



灰溶融炉

電気により1,500℃の高温で灰を溶かします。溶けた灰は、スラグとして土木資材として有効利用します。